

(電子メール施行)
農技 1218 号
令和3年6月4日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和3年度病虫害発生予報第2号を發表します。

令和3年度病虫害発生予報 第2号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(葉いもち)	やや多	平年並
	ヒメトビウンカ (縞葉枯病)	やや多	平年並
	海外飛来性ウンカ類 (トビイロウンカ、セジロウンカ)	やや早い	—
ナシ	黒斑病	やや多	平年並
	黒星病	やや多	平年並
	ハダニ類	平年並	やや少
	アブラムシ類	平年並	やや少
ブドウ	べと病	平年並	少
	灰色かび病	平年並	少
野菜共通	シロイチモジヨトウ	やや多	やや多
	ハスモンヨトウ	やや多	やや多
果樹共通	果樹カメムシ類	平年並	平年並






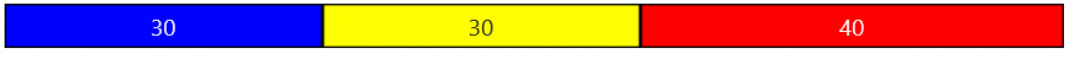
* 気象の概況

近畿地方 1か月予報
(6月5日から7月4日までの天候見通し)

令和3年6月3日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報(06/05~07/04)		
2021年06月03日14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう1か月 06/05~07/04	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
1週目 06/05~06/11	気温	1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
2週目 06/12~06/18	気温	2週目は、平年並の確率50%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 06/05~07/04	
		1週目 06/05~06/11	
		2週目 06/12~06/18	
		3~4週目 06/19~07/02	
降水量	近畿地方	向こう1か月 06/05~07/04	
日照時間	近畿地方	向こう1か月 06/05~07/04	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】（葉いもち）

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 例年5月下旬には発生のみられない本病（苗いもち）が県内の一部地域で確認されている。近畿地方では、平年より3週間早く梅雨入りし、梅雨入りした5月16日頃から県内各地でBLASTAMによる感染好適・準好適条件が出現している。今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、気温の上昇と降雨により本病の発生が助長され、やや多い発生になると予想される。

イ 5月中旬より梅雨明けまで、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ上でいもち病の感染好適条件の出現状況をBLASTAMとして提供しているので参考のこと。

(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/blastam>)

(3) 防除上の留意点

ア 播種時に箱施用剤を散布していない場合は、今後発生が懸念されるため、移植前に確実に散布を行う。

イ 補植用苗は早期にいもち病が発生しやすいので、移植後は放置せず、なるべく早く処分する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、耐性菌管理の観点から農薬の選定にあたっては、同系統の薬剤の連用は避ける。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

2 【ヒメトビウンカ】（縞葉枯病）

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月下旬の場内ムギ圃場（加西市）におけるすくい取り調査では第1世代幼虫が確認されている（37頭/10回振り、平年52.0頭）。今後の1か月の気象予報によると、気温は平年より高いとされており、本種の増殖に好適な条件が続くことから、やや多い発生になると予想される。

イ 現時点の生息場所であるムギの収穫が進むに伴って、第1世代成虫の水稲本田への飛び込みが助長される。さらに、収穫期の遅いムギでは第1世代幼虫が成虫となるまでの期間が確保されやすいことから、周辺水稲への飛び込み量が多くなることが予想されるため、注意が必要である。

ウ 本種は縞葉枯病を媒介するため、ムギ周辺圃場及び前年度に本病が多発した地域では本年度も発生が懸念される。

(3) 防除上の留意点

ア 本田における初期発病株（葉色が薄くなり巻いて垂れ下がるゆうれい症状を現す）は、後期発病（出穂異常）の感染源となるので、速やかに抜き取る。

イ 初期発病株が多数確認される場合は、後期発病を予防するため、ヒメトビウンカに対する本田防除を実施する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【海外飛来性ウンカ類（トビイロウンカ、セジロウンカ）】

(1) 現況と今後の留意点

ア 海外飛来性ウンカ類は、梅雨前線に伴う下層ジェット気流によって、中国大陸から飛来する。5月下旬時点では本県で飛来はまだ確認されていないが、近畿地方では、平年より3週間早く梅雨入りし、近隣府県では既に飛来が確認されている。

イ これらウンカ類の発生が本県でも例年より早くなる可能性がある。今後、病害虫防除所が出す情報に留意するとともに、圃場調査等によって早期発見に努める。

ナシ

1 【黒斑病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月下旬の県北部の調査では、短果枝の発病葉率1.7%（過去10年の平年値2.6%）、発生圃場率33.3%（同45.0%）と平年並の発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高いと予想されており、気温の上昇と降雨により本病の発生が助長され、発生量はやや多くなると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 農薬散布時は、薬液が十分かかるように不要な徒長枝を切り落とすこと。

イ 大袋かけ前は黒斑病の重点防除時期なので、ていねいに薬剤散布する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、耐性菌管理の観点から農薬の選定にあたっては、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【黒星病】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月下旬の県北部の調査では発病は確認されなかったが、県内の一部地域で発生が認められている。

イ 今年平年より3週間早く梅雨入りし、今後も降雨が続くと考えられることから、やや多い発生になると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 農薬散布時は、薬液が十分かかるように不要な徒長枝を切り落とすこと。

イ 徒長枝には夏から秋に発病しやすく、伝染源になりやすいので、徒長枝への薬剤散布はていねいに行うこと。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、耐性菌管理の観点から農薬の選定にあたっては、同系統の薬剤の連用は避ける。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/hyogo>)

3 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 5月下旬の県北部の調査では、寄生葉率2.5%（平年値11.7%）とやや少ない発生であった。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種に好適な条件が続くことから、平年並の発生になると予想される。

4 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 5月下旬の県北部の調査では寄生葉率2.5%（平年値7.1%）とやや少ない発生であった。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種に好適な条件が続くことから、平年並の発生になると予想される。

ブドウ

1 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 5月下旬の調査で本病の発生は確認されていない。
- イ 今年度は平年より3週間早く梅雨入りし、今後も降雨が続くと考えられることから、発生時期が早まると同時に平年並の発生になると予想される。
- ウ 本病は、露地栽培での発生が多い。また、雨よけ栽培では湿度が高くなり、発生しやすくなるので、注意すること。

2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 5月下旬の調査で本病の発生は確認されていない。
- イ 今年度は平年より3週間早く梅雨入りし、今後も降雨が続くと考えられることから、発生時期が早まると同時に平年並の発生になると予想される。
- ウ べと病と同様に雨よけ栽培では湿度が高くなり、発生しやすくなるので、注意すること。

野菜共通

1 【シロイチモジヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量： **やや多**

(2) 予報の根拠

ア 農技センター内（加西市）および北部農技内（朝来市）に設置しているフェロモントラップでは、5月4半旬以降、例年のない誘殺数の急増が確認されており、誘殺数はやや多い状態になっている。

イ 近隣府県や後述するハスモンヨトウでも同様の傾向が見られていることから、これらのフェロモントラップでみられる誘殺数の急増は、長距離飛来による可能性がある。

(3) 防除上の留意点

ア この誘殺数の急増に伴う、幼虫発生は現時点では確認されていないが、今後の発生に注意する必要がある。

2 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量： **やや多**

(2) 予報の根拠

ア 農技センター内（加西市）および北部農技内（朝来市）に設置しているフェロモントラップでは、5月4半旬以降、例年のない誘殺数の急増が確認されており、誘殺数はやや多い状態になっている。

イ 近隣府県でも同様の傾向が見られていることから、これらのフェロモントラップでみられる誘殺数の急増は、長距離飛来による可能性がある。

(3) 防除上の留意点

ア ピーマン、ナス、キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。

イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

果樹共通

1 【果樹カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は裏年（発生が少ない年）に該当する。農技センター内（加西市）に設置しているフェロモントラップでは4月～5月6半旬までの誘殺数は59頭で、裏年の過去5年平均値135頭と比べてやや少ない誘殺数であったが、裏年に多発した2019年を除く過去5年平均（42頭）と同程度である。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年よりも高いと予想されており、このまま平年並の発生で推移すると予想される。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>